

文化交流は日中間の 溝を埋められるのか

2011年10月22日(土)～23日(日)

●特別講演

日系企業の現場で見た

日中異文化コミュニケーションの摩擦と課題

日本ナレッジセンター代表 **李 年古**

●ゲスト講演

京劇と日中文化交流—パフォーマンスを交えて

桜美林大学准教授・京劇俳優 **袁 英明**

●セクション演習

A 中国における日本のマンガ・アニメの受容と影響

慶應義塾大学准教授 **山下一夫**

B 日中関係とメディア

北海道大学教授 **高井潔司**

C 行動様式における日中文化の対称性

神田外語大学准教授 **花澤聖子**

プログラム概要

第1日 10月22日(土)

13:10～14:10 特別講演
15:00～16:30 共通セッション
16:30～17:45 ゲスト講演
19:30～21:00 セクション演習1

第2日 10月23日(日)

9:30～12:00 セクション演習2
13:00～14:30 報告と討論
14:30～14:45 講師コメント
15:00 閉会

【お問い合わせ先】

公益財団法人大学セミナーハウス (担当: セミナー・留学生グループ)

TEL 042-676-8532(直) FAX 042-676-1220

Email: seminar-g@seminarhouse.or.jp URL: <http://www.seminarhouse.or.jp>

第4回国際教養セミナー

主催 公益財団法人大学セミナーハウス
場所 八王子セミナーハウス (東京都八王子市下柚木一九八七-二)

●特別講演

日系企業の現場で見た日中異文化コミュニケーションの摩擦と課題

日本ナレッジセンター代表 李 年古

日中ビジネスの現場では、双方の誤解などによって相互不信の結果を招いてしまったことが多い。講演では、事例を通じて、その不信感をもたらす文化的な要因を探ってみたい。

●ゲスト講演

京劇と日中文化交流——パフォーマンスを交えて—— 桜美林大学准教授・京劇俳優 袁 英明

●セクション演習

A 中国における日本のマンガ・アニメの受容と影響 慶應義塾大学准教授 山下 一夫

中国では現在、日本のマンガ・アニメが大変な人気で、それに伴い若年層の間で日本の現代文化に対する理解も進んでいる。一部では、これによっていわゆる「反日感情」が薄れ、両国間の溝が縮まるというような楽観論も説かれるが、中国におけるコンテンツの受容や影響のあり方を考えると、事態はそう簡単ではないことが解る。このセクションでは、幾つかのケーススタディを通して、ポップカルチャーの領域における文化交流の問題について検討する。

B 日中関係とメディア 北海道大学教授 高井 潔司

東アジア経済の一体化が進む中、外交や世論のレベルでは日中関係は悪化の一途をたどっている。その原因のひとつにメディアの作用が指摘されるだろう。日中関係において、メディアはどのような役割を果たしているのか、関係の改善を目指すとしたら、メディアはどのような役割を果たすべきなのか。両国のメディア制度、メディアの発展状況などを踏まえ、日中関係とメディアのあり方を考える。

C 行動様式における日中文化の対称性 神田外語大学准教授 花澤 聖子

日本も中国も共に東アジア圏に属する国だが、行動様式はむしろ対称的だ。日本社会では、中国人は自己中心的だというイメージを持っている人が多く、日本人を友人、親戚に持つ中国人は、日本人は冷たいと感じることが多い。いずれも、それぞれの文化における行動様式や価値観を互いに「知らないことを知らない」ことに由来する。このセクションでは、行動様式におけるどのような対称性が双方にこうした誤解や無理解をもたらしているのか、例を挙げながら明らかにする。

【募集要項】

募集人員：50名

参加対象：大学生・大学院生、留学生及び社会人

参加費：大学生・大学院生、留学生は8,000円（会員校は6,900円）、社会人は10,000円。宿泊・食事代、資料代、税を含みます。

申込方法：ホームページ掲載の申込フォームに必要な事項をご記入の上お申し込みください。1週間以内に折り返し、メールで連絡しますが、連絡がない場合には、下記までお電話ください。

申込締切：10月15日（土）定員に満たない場合には引き続き受け付けます。

問合せ先：公益財団法人 大学セミナーハウス（担当：セミナー・留学生グループ）

TEL 042-676-8532（直） FAX 042-676-1220

詳細はホームページ（URL：<http://www.seminarhouse.or.jp>）をご覧ください。

●開催趣旨

1972年に国交を回復して以来、日本と中国の経済的関係は深まる一方だが、政治外交面における関係は、今世紀に入って、歴史問題や領土問題を中心にむしろ厳しさを増している。中国社会における対日イメージも90年代半ばより悪化し続けており、日本社会でも中国における反日デモや尖閣諸島沖の漁船衝突事件などにより、嫌中感が充満している。

こうした日中間の政治的溝を埋め、双方の国民感情を好転させるために、プラスのイメージの強い人的交流や文化交流をもっと盛んにしようということが以前から提起されてきた。確かに、アニメ、芸能、音楽、ファッションなど、日本のポップカルチャーの人気は中国でも高い。しかし、人的交流においては、80年代から今世紀にかけて、客人としての付き合いから、同僚、友人、隣人としての付き合いへと変化するに及んで、必ずしもうまくいっているとは言い難い。

本セミナーでは、企業文化、ポップカルチャー、双方のイメージ作りに深く係るマスメディアなど、各方面における交流の現状を把握し、政治的溝を越えて日中間の相互理解を深め、Win-Winの関係を生み出すためにどのような貢献ができるのか、文化方面における交流のあり方を探ってみたいと考えている。

◆このセミナーは、八王子学園都市大学（いちょうぎん）にプログラムの一部を提供しています。八王子学園都市大学とは、「だれでもいつでも多様に学び豊かな文化を育むまち」を実現するため、八王子市と八王子地域23大学・短期大学・高等専門学校、企業及び市民の方との協働により、市民の皆さんが意欲をもって学ぶことのできる機会の場の提供を目的として開学した。市民のための大学です。